

2025年度（令和7年度） 卒業時アンケート報告書

調査概要

1) 調査の目的

本学のディプロマ・ポリシーに基づく学修成果の到達度および教育・学修支援体制の有効性を把握し、教育の質保証および改善に資することを目的として実施した。

2) 調査方法

卒業証書授与会場において、回答フォームの二次元コードを記載した調査依頼書を配付し、Microsoft Formsを用いたオンライン形式によりアンケートを実施した。

3) 調査時期

2026年3月21日(土)卒業式当日に実施し、当日回答できない場合は3月31日(火)まで回答を受け付けた。

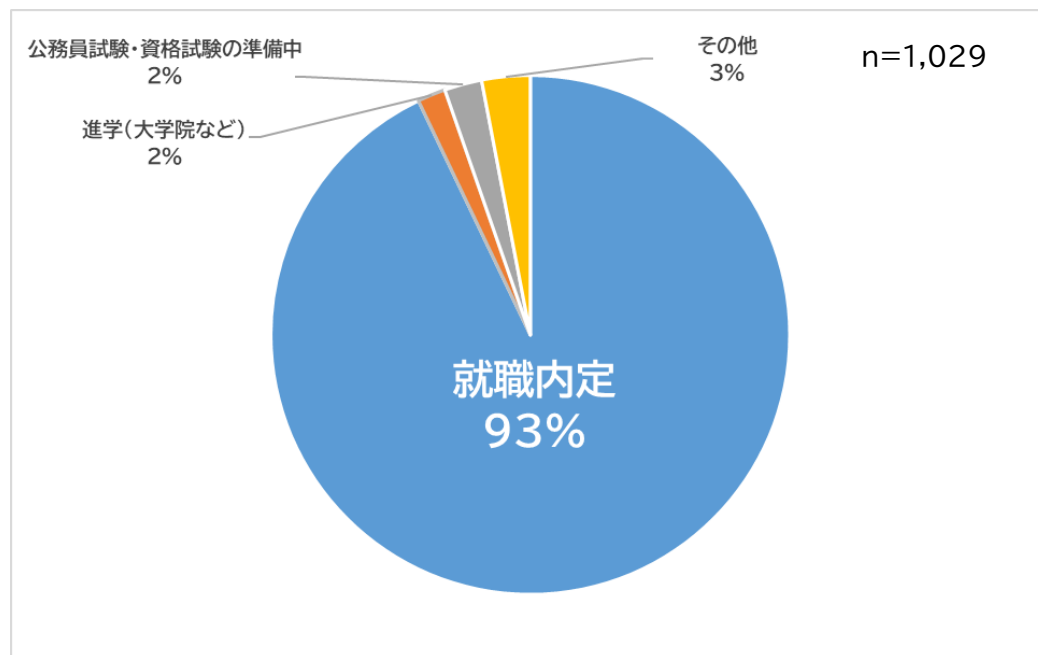
4) 調査対象者

本学を2025年度(2026年3月)に卒業した学部学生・大学院生

5) 回答数・回答率

学部（専攻）	調査 対象者数(人)	回答件数(人)	回答率
全体	1166	1031	88%
経営学部	420	343	82%
法学部	276	240	87%
教育学部	467	446	96%
（児童教育専攻）	236	231	98%
（スポーツ健康専攻）	122	112	92%
（英語教育専攻）	58	54	93%
（心理学専攻）	51	49	96%
大学院 経営学研究科	1	1	100%
大学院 法学研究科	2	1	50%

6) 回答者の進路状況



7) 集計データについて

各設問の割合(%)は当該設問の回答者数(n)を母数として算出している。

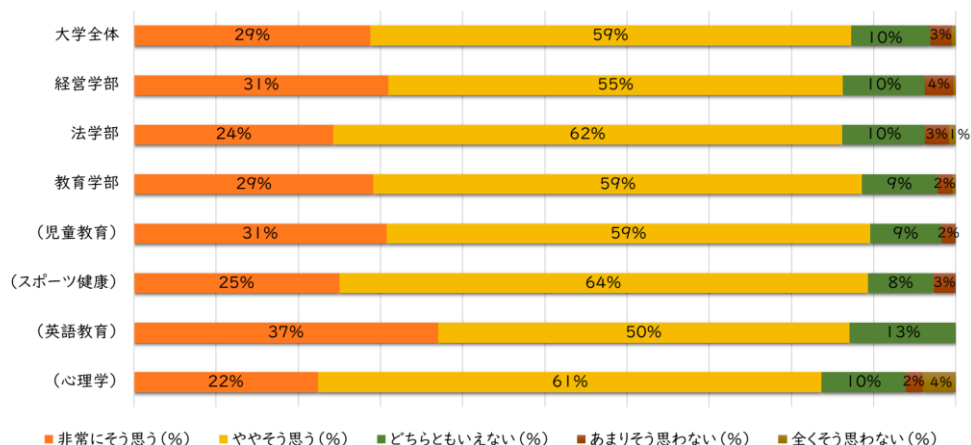
割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

本調査では、大学院の対象者数が少ないことから、個人の特定につながる可能性に配慮し、当該結果については公表を控えている。

DP①自律性・教養・柔軟な思考力の達成状況

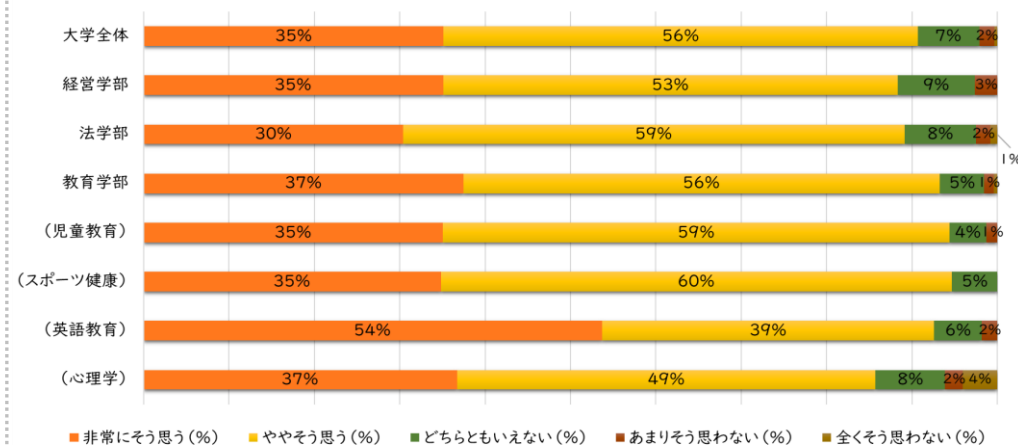
「主体的に課題解決に取り組むことができる(Q4)」および「教養や柔軟な思考力が身についている(Q5)」のいずれにおいても、肯定的評価(「非常にそう思う」「ややそう思う」)は約90%前後と高い水準を示しており、大学全体として必須の素養を涵養できたとする肯定的な自己評価が広く見られる。このことから、基礎的能力は概ね習得されていると評価できるが、他の設問結果を踏まえると、これらの能力が地域活動や主体的行動といった場面でどの程度発揮されているかについては、さらなる検証が必要である。

Q4.自分で課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できていると思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	29%	296	59%	602	10%	99	3%	27	0%	5	100%	1029
経営学部	31%	106	55%	189	10%	34	4%	12	0%	1	100%	342
法学部	24%	58	62%	148	10%	24	3%	7	1%	2	100%	239
教育学部	29%	130	59%	265	9%	41	2%	8	0%	2	100%	446
(児童教育)	31%	71	59%	136	9%	20	2%	4	0%	0	100%	231
(スポーツ健康)	25%	28	64%	72	8%	9	3%	3	0%	0	100%	112
(英語教育)	37%	20	50%	27	13%	7	0%	0	0%	0	100%	54
(心理学)	22%	11	61%	30	10%	5	2%	1	4%	2	100%	49

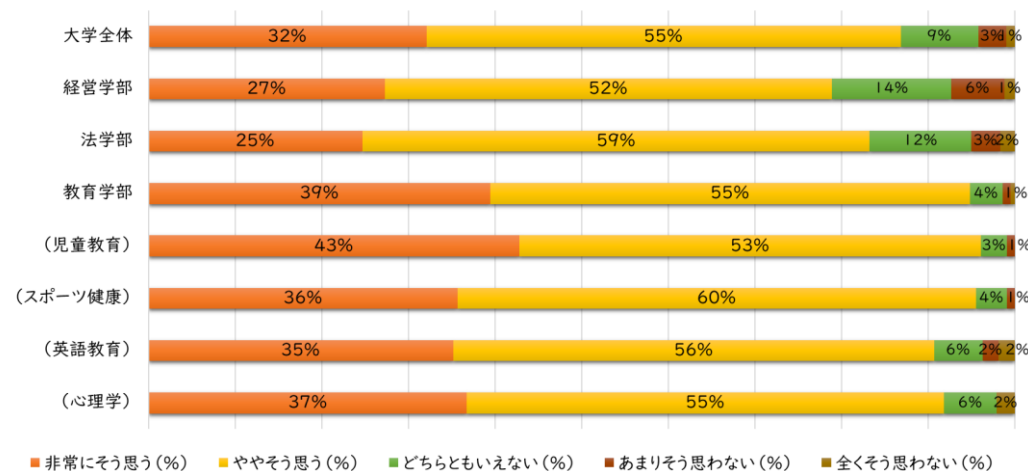
Q5.教養や柔軟な思考力が身についていると思いますか



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	35%	362	56%	572	7%	74	2%	18	0%	4	100%	1030
経営学部	35%	120	53%	182	9%	31	3%	9	0%	0	100%	342
法学部	30%	73	59%	141	8%	20	2%	4	1%	2	100%	240
教育学部	37%	167	56%	249	5%	23	1%	5	0%	2	100%	446
(児童教育)	35%	81	59%	137	4%	10	1%	3	0%	0	100%	231
(スポーツ健康)	35%	39	60%	67	5%	6	0%	0	0%	0	100%	112
(英語教育)	54%	29	39%	21	6%	3	2%	1	0%	0	100%	54
(心理学)	37%	18	49%	24	8%	4	2%	1	4%	2	100%	49

「専門分野に関する知識や技能が身についている(Q6)」において、肯定的評価は87%と高い水準を示しており、全体として基礎的な専門性は概ね習得されていると認識されている。入学時アンケートにおいて同項目の肯定的評価が約40%程度であったことを踏まえると、在学期間を通じて、専門知識・技能が大きく向上していることが確認される。

Q6.専門分野に関する知識や技能が身についていると思いますか。

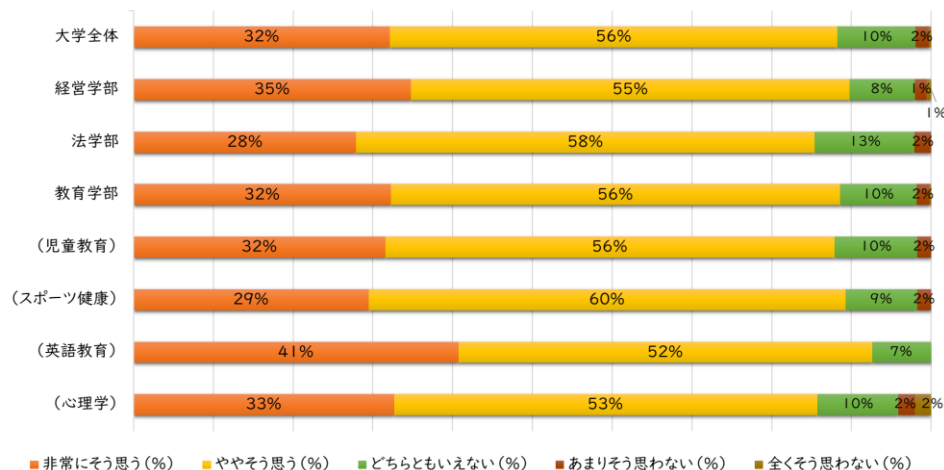


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	32%	330	55%	563	9%	92	3%	33	1%	10	100%	1028
経営学部	27%	93	52%	176	14%	47	6%	21	1%	4	100%	341
法学部	25%	59	59%	140	12%	28	3%	8	2%	4	100%	239
教育学部	39%	176	55%	247	4%	17	1%	4	0%	2	100%	446
(児童教育)	43%	99	53%	123	3%	7	1%	2	0%	0	100%	231
(スポーツ健康)	36%	40	60%	67	4%	4	1%	1	0%	0	100%	112
(英語教育)	35%	19	56%	30	6%	3	2%	1	2%	1	100%	54
(心理学)	37%	18	55%	27	6%	3	0%	0	2%	1	100%	49

DP②情報活用力・発信力

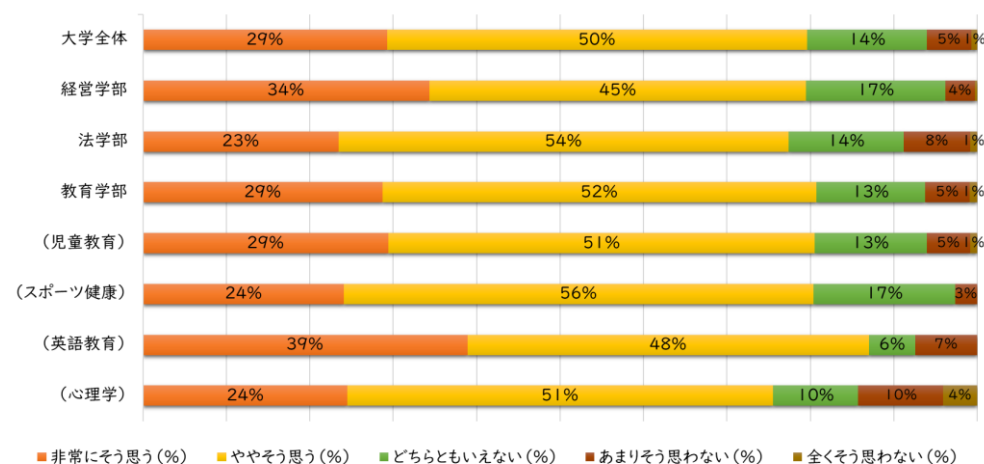
「必要な情報を自ら収集・整理し、課題解決に活用できている(Q7)」および「自分の考えをわかりやすく表現・発信できている(Q8)」のいずれにおいても、肯定的評価は80～90%と高い水準を示しており、情報活用力・発信力の基礎は概ね形成されていると評価できる。しかしながら、「在学中にもっと伸ばしたかった力」としてコミュニケーション力が上位に挙げられていることを踏まえると、実践的な場面でどの程度発揮できていたかについてはさらなる検証が必要である。

Q7. 必要な情報を自ら収集・整理し、課題解決に活用できていると思いますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	32%	331	56%	578	10%	101	2%	17	0%	3	100%	1030
経営学部	35%	119	55%	188	8%	28	1%	5	1%	2	100%	342
法学部	28%	67	58%	138	13%	30	2%	5	0%	0	100%	240
教育学部	32%	144	56%	251	10%	43	2%	7	0%	1	100%	446
(児童教育)	32%	73	56%	130	10%	24	2%	4	0%	0	100%	231
(スポーツ健康)	29%	33	60%	67	9%	10	2%	2	0%	0	100%	112
(英語教育)	41%	22	52%	28	7%	4	0%	0	0%	0	100%	54
(心理学)	33%	16	53%	26	10%	5	2%	1	2%	1	100%	49

Q8. 自分の考えをわかりやすく表現・発信できていると思いますか。

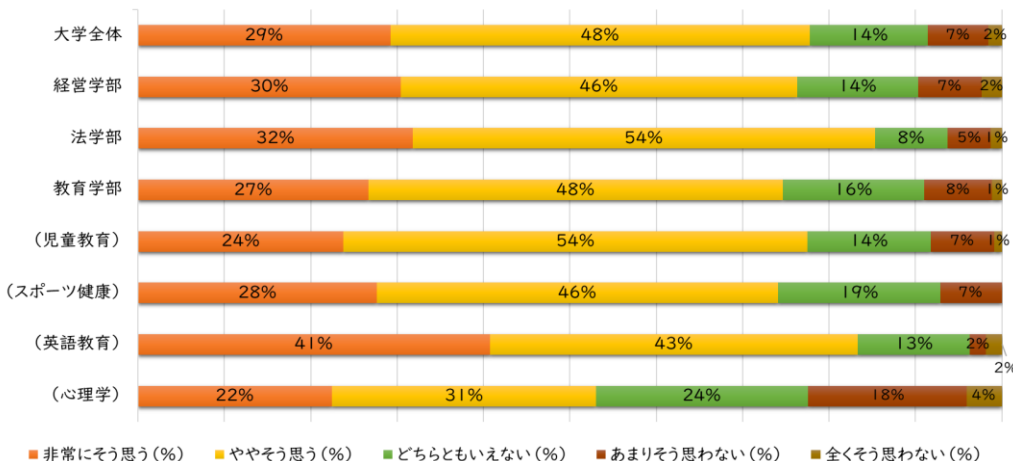


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	29%	301	50%	517	14%	148	5%	55	1%	7	100%	1028
経営学部	34%	117	45%	154	17%	57	4%	12	0%	1	100%	341
法学部	23%	56	54%	129	14%	33	8%	19	1%	2	100%	239
教育学部	29%	128	52%	232	13%	58	5%	24	1%	4	100%	446
(児童教育)	29%	68	51%	118	13%	31	5%	12	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	24%	27	56%	63	17%	19	3%	3	0%	0	100%	112
(英語教育)	39%	21	48%	26	6%	3	7%	4	0%	0	100%	54
(心理学)	24%	12	51%	25	10%	5	10%	5	4%	2	100%	49

DP③社会・地域への貢献力

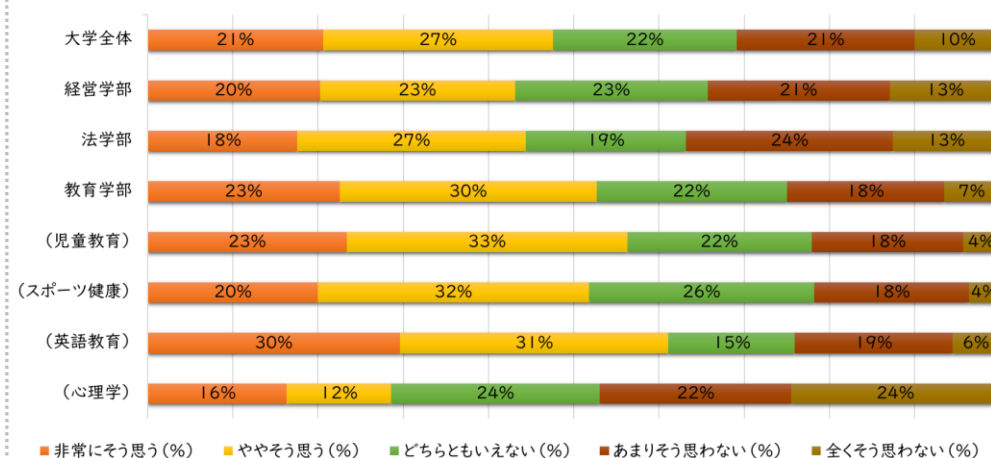
「社会や地域の課題に関心を持っている(Q9)」においては肯定的評価が77%と一定の水準を示している一方で、「地域活動やボランティアなどに主体的に参加できている(Q10)」は48%にとどまっており、社会課題への関心という「意識面」に比べ、地域活動やボランティア等の「行動・実践面」への参加には差が見られる。このことから、高まった意識を具体的な地域活動という「実践」へ結びつけるアプローチが必要であると思われる。

Q9.社会や地域の課題に関心を持っていますか。



学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	29%	301	48%	499	14%	141	7%	72	2%	16	100%	1029
経営学部	30%	104	46%	157	14%	48	7%	25	2%	8	100%	342
法学部	32%	76	54%	128	8%	20	5%	12	1%	3	100%	239
教育学部	27%	119	48%	214	16%	73	8%	35	1%	5	100%	446
(児童教育)	24%	55	54%	124	14%	33	7%	17	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	28%	31	46%	52	19%	21	7%	8	0%	0	100%	112
(英語教育)	41%	22	43%	23	13%	7	2%	1	2%	1	100%	54
(心理学)	22%	11	31%	15	24%	12	18%	9	4%	2	100%	49

Q10.地域活動やボランティアなどに、主体的に参加できていると思いますか。

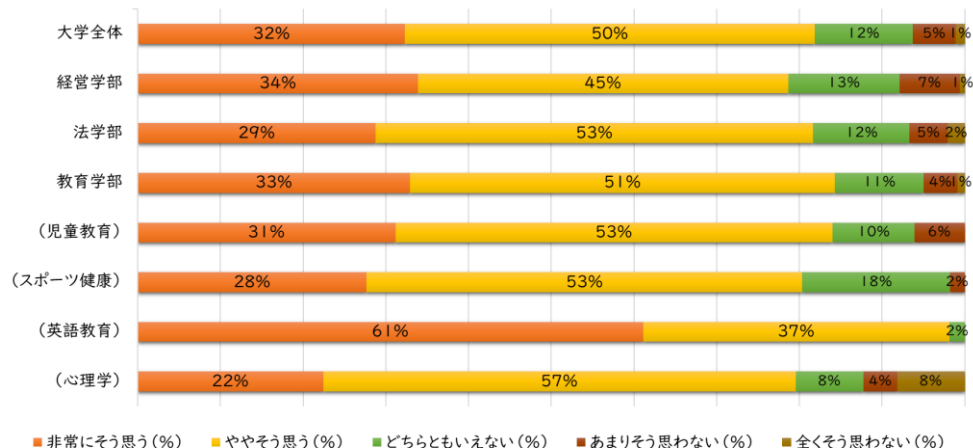


学部	非常にそう思う(%)	非常にそう思う(人)	ややそう思う(%)	ややそう思う(人)	どちらともいえない(%)	どちらともいえない(人)	あまりそう思わない(%)	あまりそう思わない(人)	全くそう思わない(%)	全くそう思わない(人)	%	回答者数(n)
大学全体	21%	211	27%	277	22%	221	21%	214	10%	103	100%	1026
経営学部	20%	69	23%	78	23%	77	21%	73	13%	44	100%	341
法学部	18%	42	27%	64	19%	45	24%	58	13%	30	100%	239
教育学部	23%	100	30%	134	22%	99	18%	82	7%	29	100%	444
(児童教育)	23%	54	33%	76	22%	50	18%	41	4%	10	100%	231
(スポーツ健康)	20%	22	32%	35	26%	29	18%	20	4%	4	100%	110
(英語教育)	30%	16	31%	17	15%	8	19%	10	6%	3	100%	54
(心理学)	16%	8	12%	6	24%	12	22%	11	24%	12	100%	49

DP④国際的視野と将来を展望する力

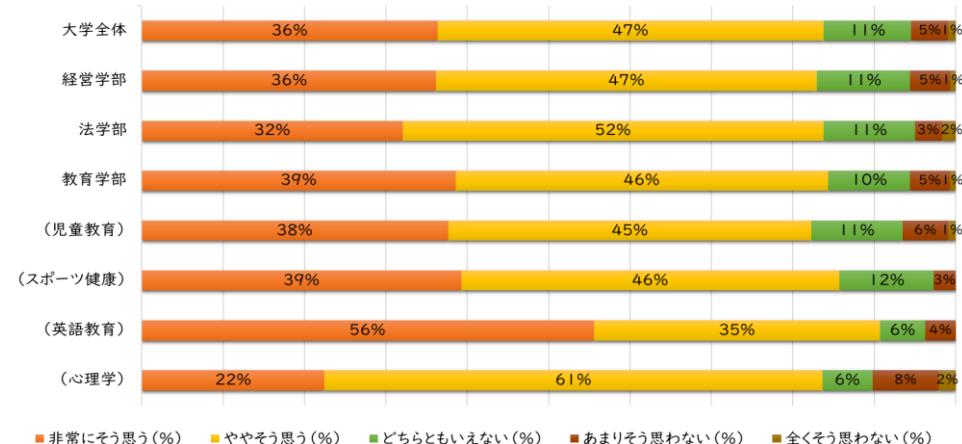
「異文化や多様な価値観を理解する姿勢が身についている(Q11)」および「将来を長期的・広い視野で考えることができる(Q12)」のいずれにおいても、肯定的評価は約80%前後と一定の水準を示しており、本学における国際的視野および将来展望に関する基礎的能力は概ね形成されていると評価できる。しかし、他の基礎的能力と比較すると肯定的評価の水準はやや低い水準にとどまっており、相対的に伸長の余地があると考えられる。

Q11.異文化や多様な価値観を理解する姿勢が身についていると思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	32%	333	50%	510	12%	122	5%	54	1%	11	100%	1030
経営学部	34%	116	45%	153	13%	46	7%	25	1%	2	100%	342
法学部	29%	69	53%	127	12%	28	5%	11	2%	5	100%	240
教育学部	33%	147	51%	229	11%	48	4%	18	1%	4	100%	446
(児童教育)	31%	72	53%	122	10%	23	6%	14	0%	0	100%	231
(スポーツ健康)	28%	31	53%	59	18%	20	2%	2	0%	0	100%	112
(英語教育)	61%	33	37%	20	2%	1	0%	0	0%	0	100%	54
(心理学)	22%	11	57%	28	8%	4	4%	2	8%	4	100%	49

Q12.将来を長期的・広い視野で考えることができますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	36%	374	47%	487	11%	111	5%	47	1%	9	100%	1028
経営学部	36%	123	47%	159	11%	39	5%	17	1%	2	100%	340
法学部	32%	77	52%	124	11%	27	3%	8	2%	4	100%	240
教育学部	39%	172	46%	204	10%	45	5%	22	1%	3	100%	446
(児童教育)	38%	87	45%	103	11%	26	6%	13	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	39%	44	46%	52	12%	13	3%	3	0%	0	100%	112
(英語教育)	56%	30	35%	19	6%	3	4%	2	0%	0	100%	54
(心理学)	22%	11	61%	30	6%	3	8%	4	2%	1	100%	49

ディプロマ・ポリシー（DP）の達成状況を総括すると、DP①の主体性や柔軟な思考、DP②の情報収集・整理などの基礎的・汎用的能力および専門的知識・技能においては、肯定的評価が80～90%台と高い水準を示しており、概ね達成できていると思われる。

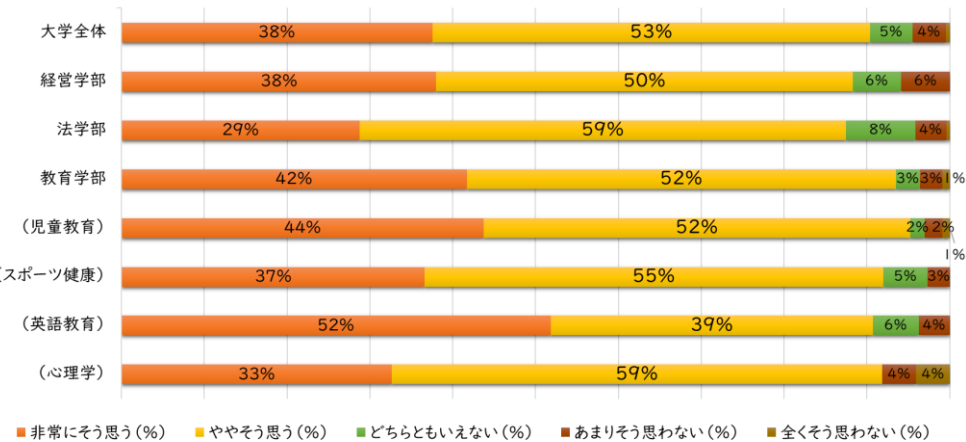
一方で、DP③の社会や地域への貢献力については、関心（77%）と行動（48%）との間に大きなギャップが見られる。また、DP④の国際的視野や将来への展望についても、他の能力と比較して低い水準にとどまっており、これらの能力のさらなる伸長が求められる。

本学の教育は、「基礎的能力の育成」という点では一定の成果が確認できる一方、そこで得られた意識や知識を、実際の行動や実践につなげるという「接続」の側面での課題があり、引き続き検証が必要である。

教育・学修環境に関する評価

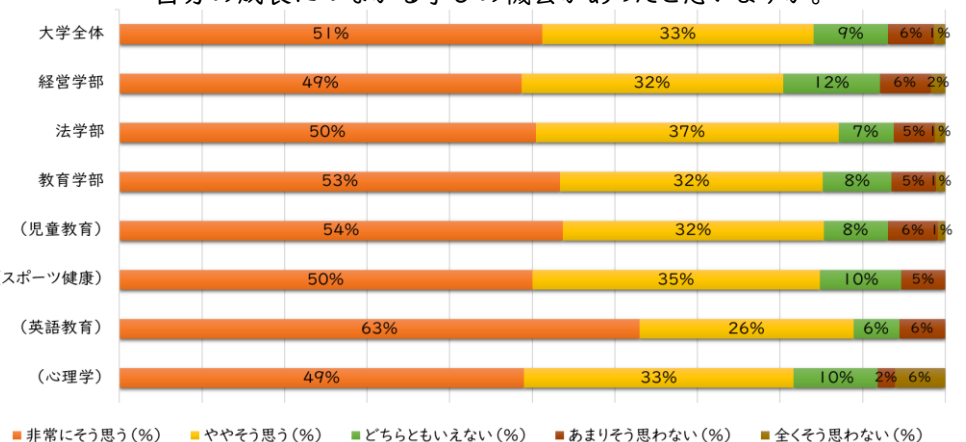
「授業を通じて主体的に学ぶことができた (Q13)」においては、肯定的評価が約90%と高い水準を示しており、本学の授業は学修意欲の向上および基礎的能力の育成に寄与していると評価できる。また、「授業やゼミ以外の活動を通じて成長につながる機会 (Q14)」についても、肯定的評価は同様に高い水準を示している。教員との良好な関係性や現場に根ざした実践的な学びの環境が、学生たちの高い自己成長の実感や安心感に結びついていることが強みとして読み取れる。

Q13. 授業を通して、自ら学びを深めようとする姿勢で取り組むことができましたか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	38%	387	53%	544	5%	53	4%	41	0%	5	100%	1030
経営学部	38%	130	50%	172	6%	20	6%	20	0%	0	100%	342
法学部	29%	69	59%	141	8%	20	4%	9	0%	1	100%	240
教育学部	42%	186	52%	231	3%	13	3%	12	1%	4	100%	446
(児童教育)	44%	101	52%	119	2%	4	2%	5	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	37%	41	55%	62	5%	6	3%	3	0%	0	100%	112
(英語教育)	52%	28	39%	21	6%	3	4%	2	0%	0	100%	54
(心理学)	33%	16	59%	29	0%	0	4%	2	4%	2	100%	49

Q14. 授業やゼミ以外の活動 (資格取得、インターンシップ、課外活動など) を通じて、自分の成長につながる学びの機会があったと思いますか。

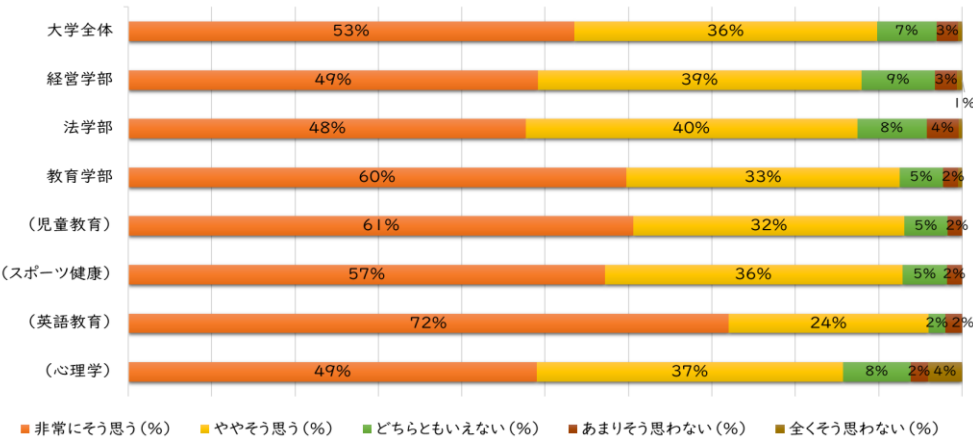


学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	51%	527	33%	338	9%	93	6%	57	1%	14	100%	1029
経営学部	49%	166	32%	108	12%	40	6%	21	2%	6	100%	341
法学部	50%	121	37%	88	7%	16	5%	12	1%	3	100%	240
教育学部	53%	238	32%	142	8%	37	5%	24	1%	5	100%	446
(児童教育)	54%	124	32%	73	8%	18	6%	14	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	50%	56	35%	39	10%	11	5%	6	0%	0	100%	112
(英語教育)	63%	34	26%	14	6%	3	6%	3	0%	0	100%	54
(心理学)	49%	24	33%	16	10%	5	2%	1	6%	3	100%	49

教育・学修環境に関する評価

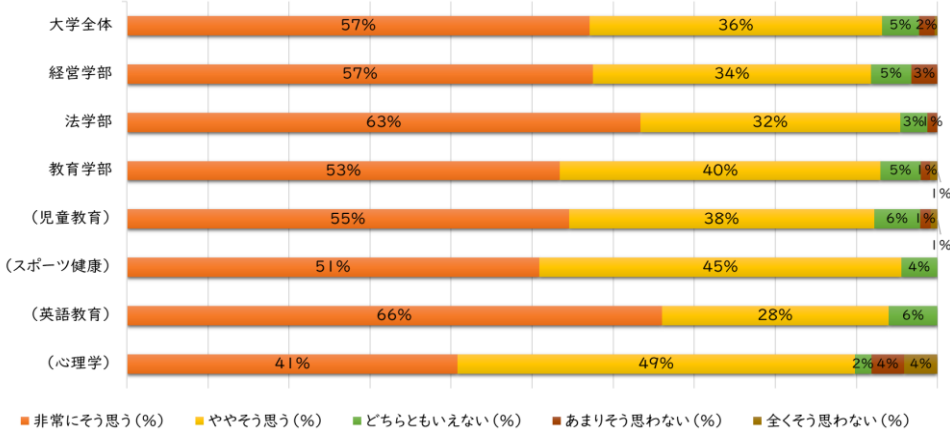
「教職員による学修支援(Q15)」においては、肯定的評価が約90%と高い水準を示しており、本学の支援体制は十分に機能していると評価できる。また、「施設・設備(Q16)」についても同様に高い評価が得られており、学修環境の基盤は良好に整備されているといえる。

Q15.教員や職員から、学修や進路に関する助言・サポートを受けられる環境が整っていたと思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	53%	547	36%	372	7%	73	3%	26	0%	5	100%	1023
経営学部	49%	167	39%	132	9%	30	3%	9	1%	2	100%	340
法学部	48%	114	40%	95	8%	20	4%	9	0%	1	100%	239
教育学部	60%	264	33%	145	5%	23	2%	8	0%	2	100%	442
(児童教育)	61%	140	32%	75	5%	12	2%	4	0%	0	100%	231
(スポーツ健康)	57%	64	36%	40	5%	6	2%	2	0%	0	100%	112
(英語教育)	72%	36	24%	12	2%	1	2%	1	0%	0	100%	50
(心理学)	49%	24	37%	18	8%	4	2%	1	4%	2	100%	49

Q16.本学の施設・設備(教室、図書館、ICT環境など)は学びに役立ったと思いますか。



学部	非常にそう思う (%)	非常にそう思う (人)	ややそう思う (%)	ややそう思う (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまりそう思わない (%)	あまりそう思わない (人)	全くそう思わない (%)	全くそう思わない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	57%	585	36%	370	5%	47	2%	19	0%	4	100%	1025
経営学部	57%	196	34%	117	5%	17	3%	11	0%	0	100%	341
法学部	63%	152	32%	77	3%	8	1%	3	0%	0	100%	240
教育学部	53%	236	40%	175	5%	22	1%	5	1%	4	100%	442
(児童教育)	55%	126	38%	87	6%	13	1%	3	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	51%	57	45%	50	4%	5	0%	0	0%	0	100%	112
(英語教育)	66%	33	28%	14	6%	3	0%	0	0%	0	100%	50
(心理学)	41%	20	49%	24	2%	1	4%	2	4%	2	100%	49

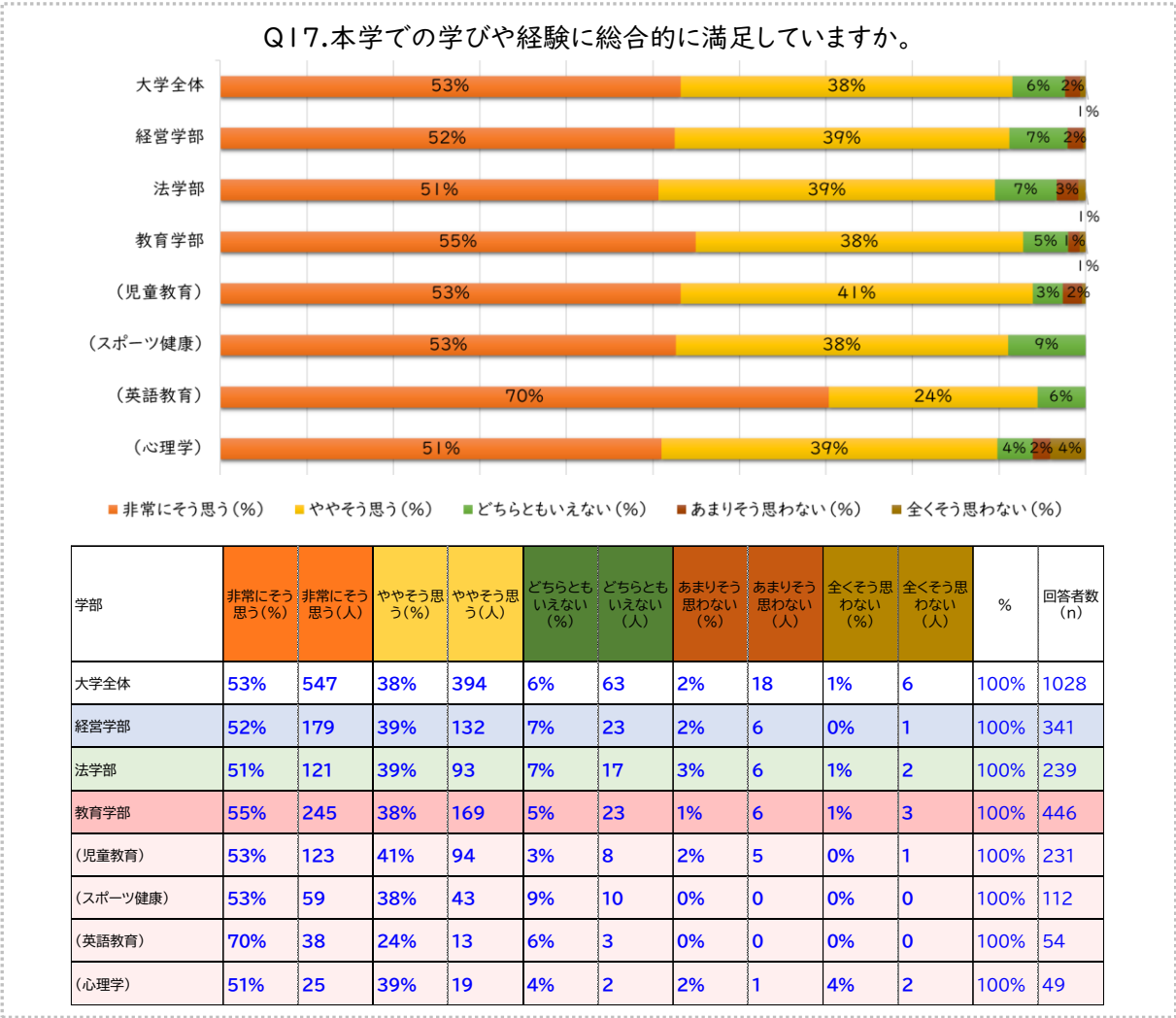
本学における教育・学修環境に関する評価については、授業内容(Q13)、授業外活動(Q14)、教職員による支援体制(Q15)、施設・設備(Q16)のいずれの項目においても肯定的評価は80%~90%台と高く、教育環境および支援体制は十分に整備され、有効に機能していると評価できる。

特に、授業および課外活動において「非常にそう思う」の割合が一定程度高いことから、能動的な学修機会は学生にとって成長実感を伴う経験として機能していることが確認される。

これは、本学の強みである教職員と学生との距離の近さやきめ細かなサポート体制が高満足度の根幹にあることを示すものである。しかしながら、DP総括でも述べたように、学修成果の実践的な活用という点では課題があり、今後は、整備された教育環境を「成果の発揮・社会接続」に結びつけることが重要となる。

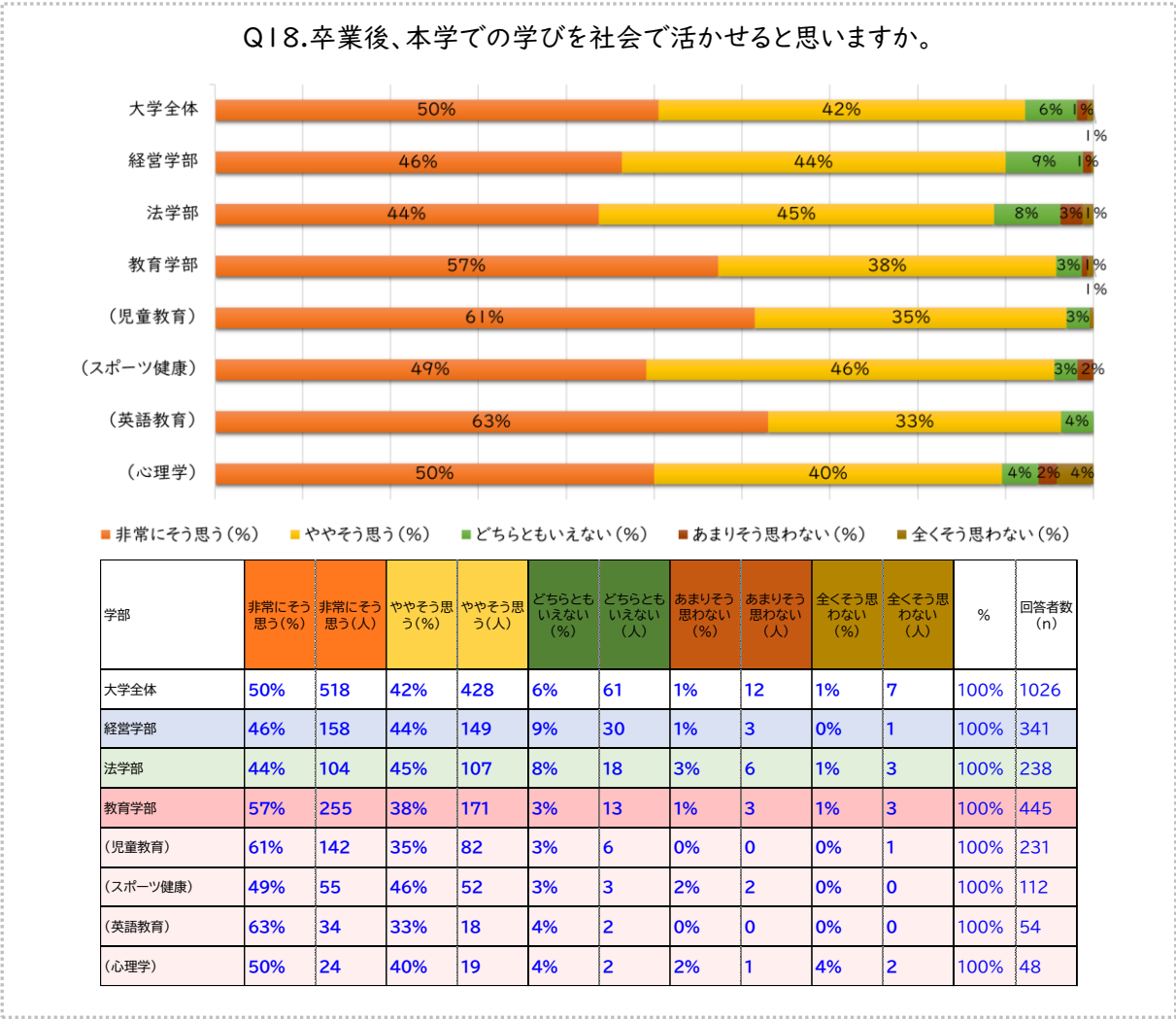
満足度・充実度に関する評価

いずれの学部においても「本学での学びや経験に総合的に満足しているか（Q17）」で肯定的評価が約90%と非常に高い水準を示しており、本学の教育に対する満足度は高く、満足感や充実感を得て卒業している傾向がうかがえる。一方で、他の設問結果との関係から、こうした学修成果をどのように発展させていくかという観点においては、さらなる工夫の余地があると考えられる。



学修成果の社会的活用に関する評価

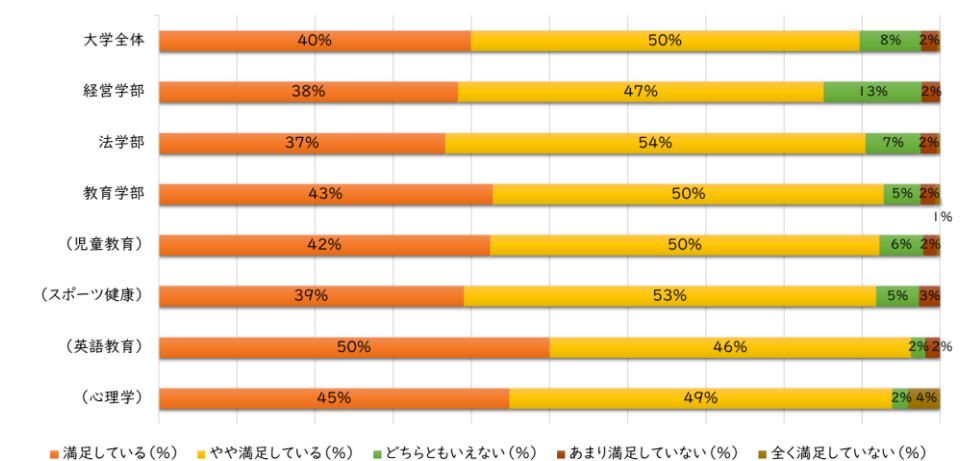
「卒業後、本学での学びを社会で活かせると思うか（Q18）」は、肯定的評価が約90%と高い水準を示しており、学修成果の社会的有用性について高く評価していることを示すものである。



満足度・充実度に関する評価

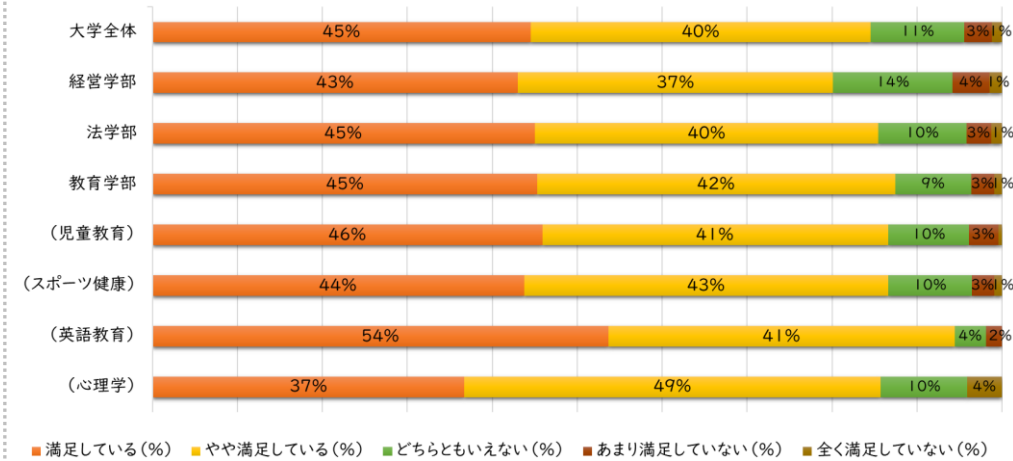
「学業・授業内容の満足度」および「学生支援（履修・学業特待制度・相談等）の満足度」については、いずれも肯定的評価が85～90％程度と高い水準を示しており、多くの学生が「大学に入学して良かった」と肯定的に捉えている傾向がうかがえる。

Q19.学業・授業内容の満足度



学部	満足している (%)	満足している (人)	やや満足している (%)	やや満足している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり満足していない (%)	あまり満足していない (人)	全く満足していない (%)	全く満足していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	40%	411	50%	511	8%	81	2%	21	0%	4	100%	1028
経営学部	38%	131	47%	160	13%	43	2%	8	0%	0	100%	342
法学部	37%	88	54%	129	7%	17	2%	5	0%	1	100%	240
教育学部	43%	190	50%	222	5%	21	2%	8	1%	3	100%	444
(児童教育)	42%	98	50%	115	6%	13	2%	4	0%	1	100%	231
(スポーツ健康)	39%	43	53%	58	5%	6	3%	3	0%	0	100%	110
(英語教育)	50%	27	46%	25	2%	1	2%	1	0%	0	100%	54
(心理学)	45%	22	49%	24	2%	1	0%	0	4%	2	100%	49

Q19.学生支援・制度（履修・学業特待制度・相談など）の満足度

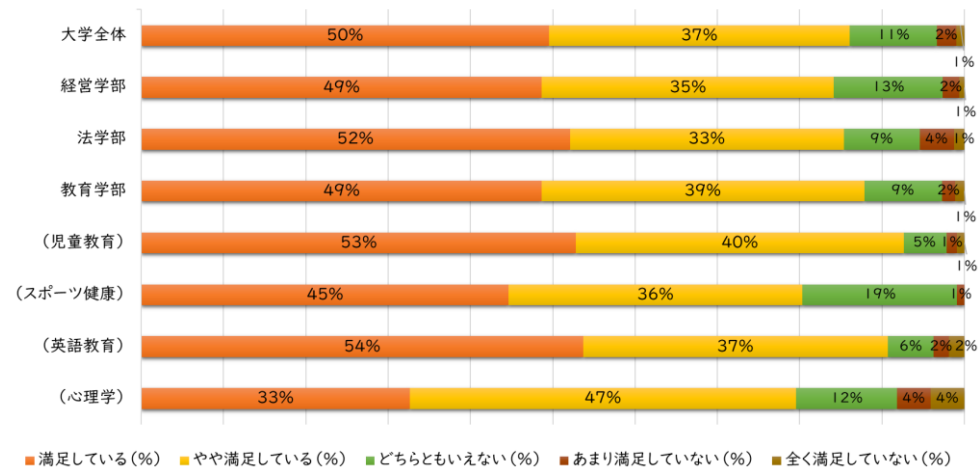


学部	満足している (%)	満足している (人)	やや満足している (%)	やや満足している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり満足していない (%)	あまり満足していない (人)	全く満足していない (%)	全く満足していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	45%	459	40%	412	11%	113	3%	34	1%	12	100%	1030
経営学部	43%	147	37%	127	14%	48	4%	15	1%	5	100%	342
法学部	45%	108	40%	97	10%	25	3%	7	1%	3	100%	240
教育学部	45%	202	42%	188	9%	40	3%	12	1%	4	100%	446
(児童教育)	46%	106	41%	94	10%	22	3%	8	0%	1	100%	231
(スポーツ健康)	44%	49	43%	48	10%	11	3%	3	1%	1	100%	112
(英語教育)	54%	29	41%	22	4%	2	2%	1	0%	0	100%	54
(心理学)	37%	18	49%	24	10%	5	0%	0	4%	2	100%	49

満足度・充実度に関する評価

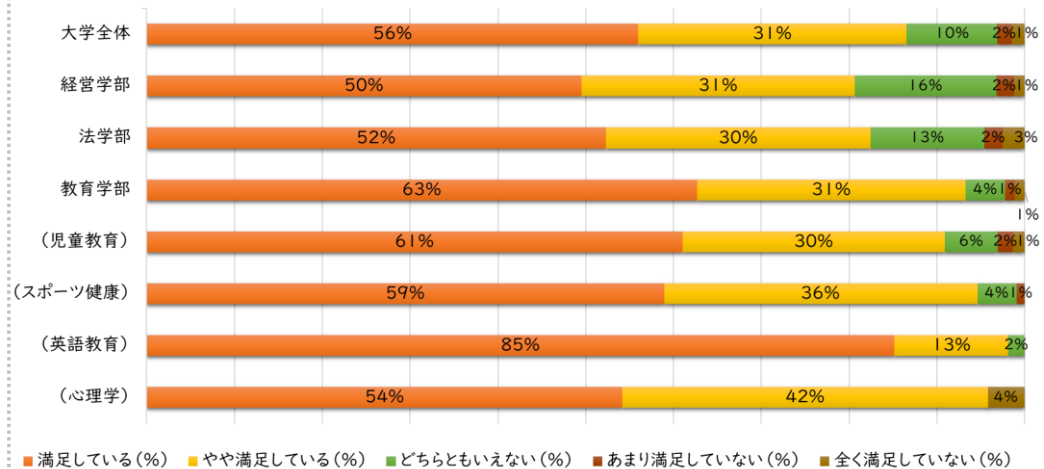
「進路・就職支援の満足度」については、肯定的評価が87%と高水準であり、本学の進路支援体制は概ね良好に機能していると評価できる。また、「学生生活（ゼミ・課外活動等）の満足度」についても同様に高い評価が得られている。これらの結果から、本学における教育内容、学生生活、進路支援は、いずれの側面においても高い満足度が確認されているといえる。

Q19.進路・就職支援の満足度



学部	満足している (%)	満足している (人)	やや満足している (%)	やや満足している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり満足していない (%)	あまり満足していない (人)	全く満足していない (%)	全く満足していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	50%	510	37%	376	11%	109	2%	24	1%	10	100%	1029
経営学部	49%	166	35%	121	13%	45	2%	7	1%	2	100%	341
法学部	52%	125	33%	80	9%	22	4%	10	1%	3	100%	240
教育学部	49%	217	39%	175	9%	42	2%	7	1%	5	100%	446
(児童教育)	53%	122	40%	92	5%	12	1%	3	1%	2	100%	231
(スポーツ健康)	45%	50	36%	40	19%	21	1%	1	0%	0	100%	112
(英語教育)	54%	29	37%	20	6%	3	2%	1	2%	1	100%	54
(心理学)	33%	16	47%	23	12%	6	4%	2	4%	2	100%	49

Q19.学生生活（ゼミ・課外活動など）の満足度



学部	満足している (%)	満足している (人)	やや満足している (%)	やや満足している (人)	どちらともいえない (%)	どちらともいえない (人)	あまり満足していない (%)	あまり満足していない (人)	全く満足していない (%)	全く満足していない (人)	%	回答者数 (n)
大学全体	56%	575	31%	314	10%	106	2%	17	1%	15	100%	1027
経営学部	50%	169	31%	106	16%	55	2%	7	1%	4	100%	341
法学部	52%	125	30%	72	13%	31	2%	5	3%	6	100%	239
教育学部	63%	279	31%	136	4%	20	1%	5	1%	5	100%	445
(児童教育)	61%	141	30%	69	6%	14	2%	4	1%	3	100%	231
(スポーツ健康)	59%	66	36%	40	4%	5	1%	1	0%	0	100%	112
(英語教育)	85%	46	13%	7	2%	1	0%	0	0%	0	100%	54
(心理学)	54%	26	42%	20	0%	0	0%	0	4%	2	100%	48

満足度・充実度に関する評価まとめ

本学における満足度・充実度に関する評価については、授業、学生支援、進路・就職支援、学生生活のいずれの項目においても肯定的評価が85～90%程度と高い水準を示しており、総合的満足度（Q17）においても約90%と高い評価が確認されている。

このことから、本学は教育内容および学修環境の両面において、学生にとって良好な学修経験を提供していると評価できる。

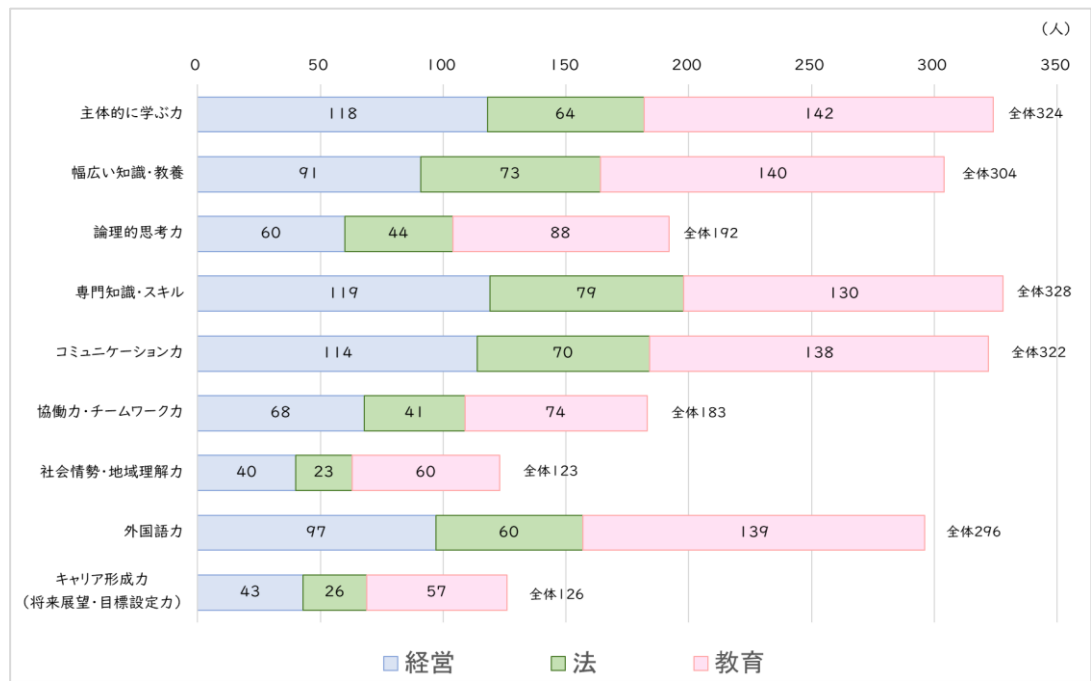
また、他の設問結果との関係から、学修成果は一定程度身についているものの、それらを多様な経験や活動へと展開していく過程については、さらなる工夫の余地があると考えられる。

今後はこれらの高い満足度を維持・向上させるだけでなく、評価のばらつきや学生のニーズの差を分析し、すべての学生に均質な経験機会とより実効性の高い学修・進路支援を提供していけるようにすることが重要である。

在学中にもっと伸ばしたかった力

「主体的に学ぶ力」「専門知識・スキル」「コミュニケーション力」等が上位に挙げられており、基礎的能力および専門的能力のさらなる向上へのニーズが確認される。この結果は、ディプロマ・ポリシーに掲げる基礎的・汎用的能力および専門的能力と対応するものであるが、本学において一定程度育成されていることを前提に、より高い水準での発揮を志向している状況を示唆するものである。しかしながら、学生自身がこれらを弱みとして自覚しているという現状を踏まえると、今後は実践的能力が発揮できる機会のさらなる提供が求められる。

Q20.在学中にもっと伸ばしたかった力を教えてください。(複数回答可)



学部	主体的に学ぶ力	幅広い知識・教養	論理的思考力	専門知識・スキル	コミュニケーション力	協働力・チームワーク力	社会情勢・地域理解力	外国語力	キャリア形成力 (将来展望・目標設定力)
経営学部	118	91	60	119	114	68	40	97	43
法学部	64	73	44	79	70	41	23	60	26
教育学部	142	140	88	130	138	74	60	139	57
(児童教育)	71	74	45	68	65	36	25	67	27
(スポーツ健康)	40	44	25	41	45	19	17	35	13
(英語教育)	16	10	9	8	14	10	7	20	10
(心理学)	15	12	9	13	14	9	11	17	7

大学生活で最も印象に残った学び・経験

全体的な特徴として、「ゼミ・論文・研究」が最も多く挙げられており、知識の習得にとどまらず、主体的に深く関わった経験や実践の場が、大学生活の集大成として強く印象に残る傾向にある。

Q21. 大学生活で最も印象に残った学びや経験を教えてください。

学部別カテゴリ評価クロス表

※基準 ◎◎:30%以上/◎:20~29%/○:10~19%/△:10%未満

	授業・学修	ゼミ・論文・研究	実習関係	サークル活動	部活動	就職活動	留学・国際交流	人間関係
経営学部	○	◎◎	△	△	△	△	△	△
法学部	○	◎◎	△	△	△	△	△	△
教育学部	◎◎	◎◎	◎◎	△	○	△	△	△
児童教育専攻	○	◎	◎◎	△	△	△	△	△
スポーツ健康専攻	○	◎	○	△	○	△	△	△
英語教育専攻	◎	◎	○	△	△	△	○	△
心理学専攻	△	◎◎	△	△	△	△	△	△

※本表は、自由記述回答に含まれる内容をカテゴリ別に分類し、その件数および割合を集計したもの
割合(%)は、全体の出現件数を100%として算出している。
なお、1つの回答に複数の内容が含まれる場合は、それぞれのカテゴリに重複して計上している。

カテゴリ別 出現傾向キーワード

授業・学修	授業、講義、グループワーク、専門知識、レポート、発表、ディスカッション
ゼミ・論文・研究	ゼミ活動、卒業論文、研究、発表、議論、フィールドワーク、政策提案
実習関係	教育実習、実習、現場、子ども、保育、授業実践、指導、成長、やりがい
サークル活動	サークル、仲間、友人、イベント、文化祭、交流、経験、成長
部活動	部活、仲間、努力、継続、大会、達成、チーム、練習
就職活動	キャリアサポート、面接、インターン、自己分析、企業研究、内定
留学・国際交流	留学、海外、異文化、交流、英語、コミュニケーション、価値観
人間関係	友人、仲間、協力、コミュニケーション、出会い、支え合い
その他	資格、簿記、ITパスポート、ボランティア、アルバイト、経験、学生会、リーダー

■大学全体

区分	件数	%
授業・学修	80	13%
ゼミ・論文・研究	172	29%
実習関係	67	11%
サークル活動	34	6%
部活動	34	6%
就職活動	23	4%
留学・国際交流	15	3%
人間関係	27	5%
その他	146	24%
合計	598	100%

■経営学部

区分	件数	%
授業・学修	22	12%
ゼミ・論文・研究	58	33%
実習関係	1	1%
サークル活動	14	8%
部活動	8	4%
就職活動	10	6%
留学・国際交流	7	4%
人間関係	7	4%
その他	51	29%
合計	178	100%

■法学部

区分	件数	%
授業・学修	13	10%
ゼミ・論文・研究	39	30%
実習関係	0	0%
サークル活動	9	7%
部活動	7	5%
就職活動	9	7%
留学・国際交流	1	1%
人間関係	8	6%
その他	42	33%
合計	128	100%

■教育学部

区分	件数	%
授業・学修	45	35%
ゼミ・論文・研究	75	59%
実習関係	66	52%
サークル活動	11	9%
部活動	19	15%
就職活動	4	3%
留学・国際交流	7	5%
人間関係	12	9%
その他	53	41%
合計	292	228%

■児童教育専攻

区分	件数	%
授業・学修	23	13%
ゼミ・論文・研究	42	24%
実習関係	51	30%
サークル活動	10	6%
部活動	8	5%
就職活動	3	2%
留学・国際交流	1	1%
人間関係	10	6%
その他	24	14%
合計	172	100%

■スポーツ健康専攻

区分	件数	%
授業・学修	14	23%
ゼミ・論文・研究	13	21%
実習関係	7	11%
サークル活動	0	0%
部活動	9	15%
就職活動	0	0%
留学・国際交流	0	0%
人間関係	1	2%
その他	17	28%
合計	61	100%

■英語教育専攻

区分	件数	%
授業・学修	7	21%
ゼミ・論文・研究	9	27%
実習関係	6	18%
サークル活動	0	0%
部活動	0	0%
就職活動	0	0%
留学・国際交流	6	18%
人間関係	1	3%
その他	4	12%
合計	33	100%

■心理学専攻

区分	件数	%
授業・学修	1	4%
ゼミ・論文・研究	11	42%
実習関係	2	8%
サークル活動	1	4%
部活動	2	8%
就職活動	1	4%
留学・国際交流	0	0%
人間関係	0	0%
その他	8	31%
合計	26	100%

今後、大学に期待すること・改善してほしい点

「授業・履修制度」「施設・設備」「進路・就職支援」等に関する意見が多く挙げられており、教育環境や学修内容に対する関心の高さがうかがえる。本学においては教育環境の整備は一定程度評価されている一方で、それを生かした学びの広がりや、発信・協働といった活動への展開を支える仕組みの充実が求められる。

Q22. 今後、大学に期待すること・改善してほしい点を教えてください

学部別カテゴリ評価クロス表

※基準 ◎◎:30%以上/◎:20~29%/○:10~19%/△:10%未満

	授業・履修制度	学習内容・教育の質	実習・現場経験	就職・キャリア	人間関係	課外活動	国際・語学	施設・設備	制度・運営	その他
経営学部	◎◎	△	△	△	△	△	△	△	△	◎
法学部	◎◎	△	△	◎	△	△	△	○	△	◎
教育学部	◎	△	△	△	△	△	△	○	△	◎◎
児童教育専攻	◎	○	△	△	△	△	△	○	△	◎◎
スポーツ健康専攻	○	△	△	△	△	△	△	△	△	◎◎
英語教育専攻	◎◎	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎◎
心理学専攻	○	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎◎

※本表は、自由記述回答に含まれる内容をカテゴリ別に分類し、その件数および割合を集計したものの割合(%)は、全体の出現件数を100%として算出している。
なお、1つの回答に複数の内容が含まれる場合は、それぞれのカテゴリに重複して計上している。

カテゴリ別 出現傾向キーワード

授業・履修制度	履修登録,抽選,抽選科目,単位,履修制度,定員,優先順位,履修システム,授業選択,必修,成績順,講義,席不足,ヒ逃げ
学習内容・教育の質	主体性,専門知識,実践的,グループワーク,ゼミ,思考力,ICT教育,教育技術,面接練習,学習環境,理解しやすさ
実習・現場経験	教育実習,実習,現場,子ども,実習先,教職支援,実習指導,ポータル,情報共有
就職・キャリア	就活,キャリアサポート,インターン,OBOG,公務員対策,面接,ES,就職支援,企業,資格,進路
人間関係	友人,仲間,コミュニケーション,交流,クラス,人間関係
課外活動	部活,サークル,活動,援助費,指導者,イベント
国際・語学	留学,英語,語学,海外,留学サポート
施設・設備	WiFi,ネット環境,駐車場,エアコン,空調,学食,食堂,席,教室,エレベーター,バス,充電,設備
制度・運営	評価基準,制度,ルール,統一,職員対応,学生課,予約システム,運営,対応
その他	学費,資格,ボランティア,大学発展,教員養成,設備改善,自由利用スペース,大学ブランド

■大学全体

区分	件数	%
授業・履修制度	100	37%
学習内容・教育の質	17	6%
実習・現場経験	3	1%
就職・キャリア	17	6%
人間関係	3	1%
課外活動	3	1%
国際・語学	2	1%
施設・設備	36	13%
制度・運営	5	2%
その他	87	32%
合計	273	100%

■経営学部

区分	件数	%
授業・履修制度	51	63%
学習内容・教育の質	3	4%
実習・現場経験	0	0%
就職・キャリア	1	1%
人間関係	1	1%
課外活動	0	0%
国際・語学	2	2%
施設・設備	7	9%
制度・運営	0	0%
その他	16	20%
合計	81	100%

■法学部

区分	件数	%
授業・履修制度	20	33%
学習内容・教育の質	2	3%
実習・現場経験	0	0%
就職・キャリア	12	20%
人間関係	0	0%
課外活動	0	0%
国際・語学	0	0%
施設・設備	8	13%
制度・運営	4	7%
その他	15	25%
合計	61	100%

■教育学部

区分	件数	%
授業・履修制度	29	22%
学習内容・教育の質	12	9%
実習・現場経験	3	2%
就職・キャリア	4	3%
人間関係	2	2%
課外活動	3	2%
国際・語学	0	0%
施設・設備	21	16%
制度・運営	1	1%
その他	56	43%
合計	131	100%

■児童教育専攻

区分	件数	%
授業・履修制度	16	25%
学習内容・教育の質	8	12%
実習・現場経験	3	5%
就職・キャリア	1	2%
人間関係	0	0%
課外活動	3	5%
国際・語学	0	0%
施設・設備	12	18%
制度・運営	1	2%
その他	21	32%
合計	65	100%

■スポーツ健康専攻

区分	件数	%
授業・履修制度	5	15%
学習内容・教育の質	2	6%
実習・現場経験	0	0%
就職・キャリア	1	3%
人間関係	0	0%
課外活動	0	0%
国際・語学	0	0%
施設・設備	3	9%
制度・運営	0	0%
その他	22	67%
合計	33	100%

■英語教育専攻

区分	件数	%
授業・履修制度	6	32%
学習内容・教育の質	1	5%
実習・現場経験	0	0%
就職・キャリア	1	5%
人間関係	1	5%
課外活動	0	0%
国際・語学	0	0%
施設・設備	3	16%
制度・運営	0	0%
その他	7	37%
合計	19	100%

■心理学専攻

区分	件数	%
授業・履修制度	2	14%
学習内容・教育の質	1	7%
実習・現場経験	0	0%
就職・キャリア	1	7%
人間関係	1	7%
課外活動	0	0%
国際・語学	0	0%
施設・設備	3	21%
制度・運営	0	0%
その他	6	43%
合計	14	100%

期待・改善要望に関する分析

本学に対する期待および改善要望については、「授業・履修制度」「施設・設備」「進路・就職支援」に関する項目が多く挙げられており、教育環境や学修内容に対する関心の高さが確認される。

一方で、満足度に関する設問では総じて高い評価が得られていることから、これらの要望は現状に対する不満というよりも、より良い学修経験や将来への接続を求める前向きな期待として捉えることができる。

また、「在学中にもっと伸ばしたかった力」や「印象に残った学び・経験」との関係から、学びは主に授業やゼミ等の学内活動を通じて形成されている一方で、それらを発信・協働・社会参加といった実践的な経験へと展開する機会については、さらなる充実の余地があると考えられる。

本学における改善要望の背景には能力の不足ではなく、学修成果を活用・発展させる機会に対する期待があると整理できる。

学生が自身の将来や専門性、学修環境に高い関心を持ち、建設的な要望を寄せていることから、大学側には、キャリアや実務、実習といった「実践的学び」への接続強化のための環境整備を進めていくことが求められている。

（全体的な特徴）

3学部ともにディプロマ・ポリシー（DP）に掲げられた基礎的能力の達成度は概ね良好であり、とりわけ自律性、柔軟な思考力、情報の収集・整理能力において高い肯定的回答が得られている。また、教育・学修環境や大学生活に対する総合的な満足度が非常に高く、9割近くの学生が「本学を選んで良かった」と感じて卒業している点も全学共通の大きな強みである。これは小規模校ならではの利点を活かし、教職員が学生一人ひとりに親身に向き合う少人数教育ときめ細かな支援体制が学生の信頼感や居心地の良さに結びついた結果と言える。大学生活で最も印象に残った経験として「ゼミ・論文・研究」を挙げる学生が多く、4年間の学びの集大成を通じて成長を実感し、その学修成果を卒業後に実社会で活かそうとする前向きな意識が全学的に形成されている。

（今後の課題）

今後の課題として、知識や意識を具体的な行動へ移す「理解から実践への移行」と、学生間の達成度・環境利用のばらつきの解消である。そのためには、学修成果を発信・協働・社会参加へとつなげる教育環境の提供や強化に加え、課題解決型学習（PBL）やインターンシップ、地域連携等を通じた実践的な学修機会を体系的に整備することが必要である。また、国際交流の推進（留学の低調さの改善）や学修スペース等の環境整備、および支援体制の「見える化」を通じて、諸能力を統合的に高める教育設計が求められる。